

## 註

## 第1章 可能性感覚の射程

- [1] トゥールミン(ステイヴン・E)／ジャンク(アラン・S)『ワイトゲンシュタインのウィーン』、藤村龍雄訳、TBSブリタニカ、一九七八年、一四三頁以下。
- [2] Bachmann, Ingeborg: *Der Mann ohne Eigenschaften*. In: *Werke*. Hsg. von Ch. Koschel u.a. München 1978, Bd.4, S.87.
- [3] aa.O.
- [4] Musil, Robert: *Der Mann ohne Eigenschaften*. In: *Gesammelte Werke*. Bd.1. Hsg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.16. (邦訳『ムーシル著作集第一巻・特性のない男I』、加藤二郎訳、松籟社、一九九二年、十七頁) 以下、煩雑さを避けるため、『特性のない男』からの引用については原則として註を省略し、独立させた引用部についてのみ、右の版に基づき、原典のページ数と(邦訳がある範囲で)邦訳の巻数およびページ数をしるす。
- [5] 白石明彦「人工生命とは何か・上」、朝日新聞、一九九四年二月四日(夕刊)。のちに、白石明彦『人工生命とは何か——進化するコンピュータ』、丸善、一九九五年、五九頁以下に、ほぼ同じ内容で再録。ちなみに、ラングトンはこの「生命の有り得る姿」(life-as-it-could-be)という概念を「われわれの知っている生命」(life-as-we-know-it)と対をなすものとして使っている(Langton, Christoph G.(ed): *Artificial Life*. California 1989, S.1f.)。「可能性感覚」(Möglichkeitssinn)が「現実感覚」(Wirklichkeitsinn)と対をなすもの。
- [6] 森本雅樹「宇宙論」、『図書』一九九一年四月号、八頁以下。
- [7] 同右。
- [8] 佐藤勝彦『宇宙はわれわれの宇宙だけではなかった』、同文書院、一九九一年、五八頁。
- [9] 同右、六四頁。
- [10] リオタール(ジャン＝フランソワ)『ポスト・モダン

- の条件」、小林康夫訳、書肆風の薔薇（水声社）、一九八六年、八頁。
- [11] 一九八〇年代の末に流行した『七つの子』の替え歌は、このような状況を象徴的に反映したものだと言つてよい。よく知られているように、元歌では《カラスなげ鳴くの》の後には、ほんらい《カラスは山にかわいい七つの子があるからよ》というフレーズが続くのだが、それを《カラスの勝手でしょ》に置き換えるのである。一義的な根拠づけを求めるとモダンな習性を嘲笑し、無根拠の多義性と戯れるかのように。そこにはたしかに「固定的価値観」からの解放を告げる軽やかな笑いが（一時的にせよ）あったが、この「真理にたいたす判断停止」の空白からならんかの新たな価値観が生みだされることは、おそらくないだろう。なお、今田高俊はこの替え歌に、「それまで支配的であった社会規範や行為の標準モデルを崩そうとする大衆意識」の反映を見ている。今田高俊編『ハイパー・リアリティの世界』、有斐閣、一九九四年、十三頁。
- [12] ライクマン（ジョン）『ミシエル・フーコー』、田村敏訳、岩波書店、一九八七年、一七四頁。
- [13] Habermas, Jürgen: *Der philosophische Diskurs der Moderne*. 2. Aufl. Frankfurt am Main 1985, S.213f.
- [14] ハーバーマス（ユルゲン）「近代——未完成のプロジェクト」、三島憲一訳、『思想』、一九八二年六月号、九二頁。
- [15] リオターール、前掲書、一六三頁。
- [16] Welsch, Wolfgang: *Unsere postmoderne Moderne*. 4. Aufl. Berlin 1993, S.184.
- [17] a.o., S.35.
- [18] Spinner, Helmut F.: *Die Doppelvermutt der Moderne im Spiegel der Zwei Kulturen. In: Literatur in einer industriellen Kultur*. Hrsg. von Götz Großklaus und Eberhard Lämmert. Stuttgart 1989, S.125.
- [19] ただし、早坂七緒によれば、生活の心配をすることなくそういふことができるのは、「作者の恣意的な設定ではなく、カカーニエンのミドルクラスの到達した稀有な状況の一つであった」。早坂七緒「ムージルの〈可能性感覚〉の誕生」、中央大学人文科学研究所編『陽気な黙示録』所収、中央大学出版部、一九九四年、三二二頁。
- [20] リオターール、前掲書、一〇五頁。
- [21] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.255.（邦訳『特性的ない男』Ⅰ、三二二頁）
- [22] 渡辺博「相対主義」、「コンサイス二〇世紀思想事典」、三省堂、一九八九年、所収。
- [23] ファイヤアーベント（パウエル）『理性よ、さらば』、植木哲也訳、法政大学出版社、一九九二年、十二頁。
- [24] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.1028f.（邦訳『特性的ない男』Ⅴ、五二頁）
- [25] a.o., S.246.（同右、Ⅰ、三〇〇頁以下）
- [26] U・アイゼレによれば、「もろもろの理想主義的要素からなる『特性的ない男』の主人公は、みずからおの

- 「*七文学的理想主義者になる*」のよめる。Eisele, Ulf: Ulrichs Mutter ist doch ein Tintenfaß. In: Robert Musil, Hrg. von Renate von Heydebrand. Darmstadt 1982, S.191.
- [27] Bausinger, Wilhelm: *Studien zu einer historisch-kritischen Ausgabe von Robert Musils Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*. Reinbeck bei Hamburg 1964, S.109.
- [28] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.1887.
- [29] Pennisi, Francesa: *Auf der Suche nach Ordnung. Die Entstehungsgeschichte des Ordnungsgedankens bei Robert Musil von den ersten Romanentwürfen bis zum ersten Band von „Der Mann ohne Eigenschaften“*. St. Ingbert 1990, S.217.ただし、これはミュージル自身の言葉である。
- [30] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.1883.
- [31] Naumann, Friedrich: *Mitteleuropa*. Volksausgabe mit Bulgarien u. Mitteleuropa. Berlin 1916, S.2.
- [32] aaO, S.1.
- [33] クンデラ (Kundera)「誘拐された西歐——あるいは中央ヨーロッパの悲劇」里見達郎訳、『ユリイカ』一九九一年二月号、七二頁。
- [34] 同右、七〇頁。

## 第2章 可能世界論の情景

[1] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.18f. (邦訳『特

性のない男』一、二〇頁)

- [2] Antzen, Helmut: *Musil-Kommentar zu dem Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*. München 1982, S.143
- [3] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.217. (邦訳『特性のない男』一、二六五頁)
- [4] ライブニッツ (ゴットフリート・ヴィルヘルム)『形而上学叙説』西谷裕作訳・注・解説『ライブニッツ著作集』第八卷所収、工作舎、一九九〇年、一三九頁以下、ライブニッツ『形而上学叙説』『アルノーとの往復書簡』『弁神論』からの引用は、工作舎の『ライブニッツ著作集』全十巻による。ただし、引用に際しては、表記の統一上、「ライブニッツ」はすべて「ライブニッツ」に改めた。
- [5] 『アルノーとの往復書簡』二二四頁。
- [6] 同右。
- [7] 『形而上学叙説』一六〇頁以下。
- [8] 『アルノーとの往復書簡』一三三頁および一三三頁以下。
- [9] 同右、二四三頁以下。
- [10] 同右、二四四頁。
- [11] 同右、二四五頁。
- [12] 同右、二四九頁。
- [13] 同右、二六三頁。
- [14] 同右、二六二頁。
- [15] スピノザ『エチカ』上、梶中尚志訳、岩波書店(岩波文庫)、一九七五年、七六頁。(第一部定理三三)

- [16] 同右、七七頁。(定理三三、証明)
- [17] 同右、七七頁以下。(定理三三、備考一)
- [18] Hübener, Wolfgang: *Sinn und Grenzen des Leibnizschen Optimismus*. In: *studia leibnitiana*. Bd.10, Heft 2 (1978), S.237.
- [19] 『アルノーとの往復書簡』、二六四頁。
- [20] 同右、二八〇頁。
- [21] 同右、二八〇頁以下。
- [22] 同右、二八一頁。
- [23] 同右、二六二頁。
- [24] 同右、二八一頁。
- [25] 同右、二四九頁。
- [26] この序文はほんらい、節に分けられていない。以下の「序文」節番号は、原典の段落を節に見たてた工作舎版のテキストによる。なお、『弁神論』からの引用は、以下、本文中に節番号を記し、ページ数の指示は省略する。
- [27] 以下、引用に際してテキストの節番号のみを記した場合は、「本論」の第〇節であることを示す。
- [28] 『アルノーとの往復書簡』、二七〇頁。
- [29] 同右。
- [30] 同右、二六六頁。
- [31] Hübener, a.a.O., S.232ff. および酒井潔『世界と自我——ライプニッツ形而上学論攷』、創文社、一九八七年、三三二頁以下。
- [32] ヴォルテール『カンテイド』、吉村正一郎訳、岩波

- 書店(岩波文庫)、一九五六年、十四頁。
- [33] 同右、一六二頁。
- [34] 同右、三五頁。
- [35] 同右、五〇頁。
- [36] 同右、八七頁。
- [37] 同右、一〇二頁以下。
- [38] 同右、二二頁。
- [39] 同右、九八頁。
- [40] パヴェル(トーマス)『ベルシャの鏡』、江口修訳、工作舎、一九九三年、二二頁以下。
- [41] 同右、三三頁。
- [42] 同右、三四頁。
- [43] 同右、三四頁以下。
- [44] Leibniz, Gottfried Wilhelm: *De veritatis primis* (Über die ersten Wahrheiten). In: *Philosophische Schriften*. Bd. 1. Hrg. und übersetzt von Hans Heinz Holz. Darmstadt 1985, S.176.
- [45] a.a.O., S.174.
- [46] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.246. (邦訳『特性的ない男』I、三〇〇頁以下)

### 第3章 可能的世界の夢

- [1] アウグスティヌス『告白』、山田晶訳、中央公論社

(世界の名著第十六巻) 一九七八年、一一九頁。(ただし、これは『告白』第三巻第七章に付された山田晶の註釈からの引用)

- [2] 同右、一一八頁。
- [3] 同右、二二六頁以下。
- [4] 同右、二二二頁。
- [5] 同右、二四一頁。
- [6] 同右、二四〇頁。
- [7] 同右、一一八頁。
- [8] アウグステイヌス『神の国』、泉治典ほか訳、教文館(『アウグステイヌス著作集』第十一巻) 一九八〇—一九八三年、著作集第十三巻、一〇八頁。
- [9] 同右、一〇六頁。
- [10] 同右、一〇六頁以下。
- [11] アウグステイヌス『告白』、五二頁。
- [12] 同右、二四一頁。
- [13] 同右、二四三頁。
- [14] 同右、二四〇頁。
- [15] Janssen, Hans-Gert: *Gott, Freiheit, Leid. Das Theoziee-problem in der Philosophie der Neuzeit*, 2., unveränd. Aufl. Darmstadt 1993, S.1.
- [16] Geyer, Carl-Friedrich: *Das Jahrhundert der Theoziee*. In: *Kant-Studien*, Jg.73, Heft 4 (1982), S.393.
- [17] 『弁神論』第一五一節からの引用。ここでライプニッツは、これらの問いがベール自身の投げかけた問いであるかのように言っているが、実際はそうではない。

これはベールが設定したメリッソスとゾロアスターの架空の論争の場で、ベールがゾロアスターに語らせた言葉である。『ヒエール・ベール著作集』第四巻、七三六頁以下を参照されたい。

- [18] Finster, Reinhard/Gerd van den Heuvel, *Gottfried Wilhelm Leibniz*, Reinbek bei Hamburg 1990, S.63.
- [19] *aa O.*, S.64.
- [20] Hubener, Wolfgang: *Sinn und Grenzen des Leibnizschen Optimismus*. In: *studia leibnitiana*, Bd. 10, Heft 2 (1978), S.235.
- [21] ライプニッツ(ゴットフリート・ヴィルヘルム)『モナドロジー』、西谷裕作訳、『ライプニッツ著作集』第九巻所収、工作舎、一九八九年、二四〇頁以下。
- [22] 酒井潔、前掲書、二〇七頁。
- [23] Finster van den Heuvel, *aa O.*, S.81ff.
- [24] ヴォルテール『カンディード』、吉村正一郎訳、岩波書店(『岩波文庫』)、一九五六年、九八頁。
- [25] ヴェラス(ドニ)『セヴァランブ物語』、田中良知・野沢協訳、『啓蒙のユートピア』第一巻所収、法政大学出版局、一九九六年、九二頁。(田中良知による訳者「解題」より)
- [26] 同右、二二七頁。
- [27] 同右、二二九頁。
- [28] ヴェラスは一六六〇年代から七〇年代の半ばまでイギリスにいた。『セヴァランブ物語』もその第一巻ははじめ英語版で、一六七五年にロンドンから出ている。

- フランス語版の第一巻が出るのはその二年後、ヴェーラ  
スがフランスに帰国してからのことである。
- [29] 同右 一四四頁。  
 [30] 同右 一八三頁。  
 [31] 同右 一八三頁。  
 [32] 同右 二二九頁。  
 [33] 同右。  
 [34] 同右 一三〇頁以下。  
 [35] 同右 二五九頁。  
 [36] 同右 三四九頁以下。  
 [37] 同右 三七一頁。  
 [38] 同右 二八三頁以下。  
 [39] 同右 三九一頁。  
 [40] 同右 四一一頁。  
 [41] 同右 一八〇頁。  
 [42] Veitas, Denis: *Eine Historie der Neu-gefundenen Völcker SEYKARMBES, genant 1689*. Hrg. von Wolfgang Braungart und Jutta Golawski-Braungart. Tübingen 1990. Nachwort der Herausgeber, S.43f.
- [43] ライフニッツ(ゴットフリート・ヴィルヘルム)『四の命題』、酒井潔訳、『ライフニッツ著作集』第八巻所収、工作舎、一九九〇年、四八頁。
- [44] ライフニッツ(ゴットフリート・ヴィルヘルム)『人間知性新論』、米山優訳、みすず書房、一九八七年、十一頁。
- [45] ライフニッツ『モナドロジー』、二二二頁。
- [46] Heidegger, Martin: *Nietzsche*. Bd.2, Pfullingen 1961, S.446.  
 [47] Bloch, Ernst: *Das Prinzip Hoffnung*. Bd.2, Frankfurt am Main 1973, S.1000.  
 [48] *aa O.*, S.1007.  
 [49] *aa O.*  
 [50] *aa O.*, S.1008f.  
 [51] Müller, Klaus-Detlef: Johann Gottfried Schnabel. In: *Deutsche Dichter des 17. Jahrhunderts. Ihr Leben und Werk*. Hrg. von Harald Steinhausen und Benno von Wiese. Berlin 1984, S.874.  
 [52] Schnabel, Johann Gottfried: *Insel Felsenburg*. Hrg. von Volker Meid und Ingeborg Springer-Strand. Stuttgart 1979, S.5.  
 [53] *aa O.*, S.7f.  
 [54] *aa O.*, S.7.  
 [55] *aa O.*, S.5.  
 [56] K.-D. Müller, *aa O.*, S.873.  
 [57] Schnabel: *Insel Felsenburg*, S.11.  
 [58] Brunner, Horst: *Die poetische Insel. Inseln und Inselvorstellungen in der deutschen Literatur*. Stuttgart 1967, S.102f.
- [59] 本書の論述は一九七九年刊行のレクナム版のテクストに依拠しているため、以下、とくに断らないかぎり、『フェルゼンブルク島』といえ、一七三一年に刊行された『フェルゼンブルク島』第一巻のことを意味している。なお、この作品のテクスト・クリティック上

の問題だとして、M. Stern: Die wunderlichen Fata der Insel Felsenburg. Tecks Anteil an der Neuauflage von J. G. Schnabels Roman (1828). Eine Richtigestellung. In: *Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte*, Jg. 40 (1966) を『フェルゼンブルク島』全四巻の全体像については、稲元蒨「シュナーベル『フェルゼンブルク島物語』の全体像について——J. G. Schnabel 研究(その三)」、『福岡大学人文論叢』第二一巻第三号、一九八九年、を参照されたい。

[60] Schnabel: *Insel Felsenburg*, S.34.

[61] *aaO*, S.35.

[62] *aaO*, S.97.

[63] *aaO*, S.147.

[64] *aaO*, S.237.

[65] *aaO*, S.267.

[66] *aaO*, S.343.

[67] *aaO*, S.380.

[68] *aaO*, S.107.

[69] *aaO*, S.103.

[70] *aaO*, S.369.

[71] *aaO*, S.430.

[72] 稲元蒨「この世の楽園」の改良?——フェルゼンブルク島一七二六—一七二八、伊藤利男先生退官記念論集刊行会『ロゴスとポエジー』所収、一九九五年、五四頁。

[73] 稲元蒨「シュナーベル『フェルゼンブルク島』の全

体像について」、十六頁。

[74] Brüggemann, Fritz: *Utopie und Robinsonade. Untersuchungen zu Schnabels Insel Felsenburg* (1731-1743). Weimar 1914, S.17.

[75] K.-D. Müller, *aaO*, S.882.

[76] Recker, Bertha: Johann Gottfried Schnabel: Die Insel Felsenburg (Wunderliche Fata einiger See-Fahrer). In: *Interpretationen. Romane des 17. und 18. Jahrhunderts*. Stuttgart 1996, S.84.

[77] Brunner, *aaO*, S.107.

[78] 飯塚信雄『パロックの騎士』、平凡社、一九八九年、二六六頁以下。

[79] K.-D. Müller, *aaO*, S.872f.

## 第4章 世界の複数性

[1] エドマン(ジャン)『宇宙の中の生命体』、唐牛宏・唐牛幸子訳、丸善、一九九三年、二八頁。

[2] 同右、十六頁。

[3] 横尾広光『地球外文明の思想史』、恒星社厚生閣、一九九一年、九五頁以下。

[4] 金子隆一『ファースト・コンタクト』、文藝春秋(文春新書)、一九九八年、七八頁以下。

[5] ちなみに、大衆だけでなく、スイス亡命中のレーニ

- ンも、一九〇八年の夏にローエルの『火星とその運河』を読んでいる。「きょう、ローエルの新刊の英語の本——『火星とその運河』で、火星の住人についての、おもしろい科学記事を読みました。このローエルは、特殊天文台（アメリカ）——おそらく、世界最良の——で長いあいだ研究してきた天文学者です」（M・A・ウリヤノヴァ（レーニン之母）への手紙）。レーニン（ウラジミール・イリイチ）『近親者への手紙』、マルクスレーニン主義研究所・レーニン全集刊行委員会訳『レーニン全集』第三七巻、大月書店、一九六〇年、三五〇頁。
- [6] ウェルズ（H・G）『宇宙戦争』、井上勇訳、東京創元社（創元SF文庫）、一九六九年、十一頁。
- [7] J・エドマン、前掲書、十七頁。
- [8] ラジオドラマのシナリオは、キャントリル（ハードレイ）『火星からの侵入——パニックの社会心理学』（齋藤耕二・菊池章夫訳、川島書店、一九七一年）の第一章に再録されている。
- [9] 同右、二六一頁以下。
- [10] 金子隆一、前掲書、八六頁。
- [11] ラジオドラマにおいても、その開始直後、火星に見える編についてのインタヴューを受けた天文学者ピアソン教授（オーソン・ウェルズ）は、「運河じゃありませんよ、[……] 運河だつていうのは、火星に生物が住んでいると想像している連中の通俗的な推測にすぎない。科学的立場からすれば、あの編はこの星に特
- 有の気の状態から生じたものにすぎませんよ」と断言し、火星に知的生物がいる可能性を百パーセント否定する。H・キャントリル、前掲書、七頁。
- [12] Gutke, Karl S.: *Der Mythos der Neuzeit. Das Thema der Mehrheit der Welten in der Literatur- und Geistesgeschichte von der kopernikanischen Wende bis zur Science Fiction*, Bern 1983, S.24f.
- [13] エビクロス『エビクロス——教説と手紙』、出隆・岩崎允胤訳、岩波書店（岩波文庫）、一九五九年、十五頁。
- [14] 同右、三五頁。
- [15] デイヴィス（ポール）『宇宙に隣人はいるのか』、青木薫訳、草思社、一九九七年、十五頁。
- [16] 同右、十六頁。
- [17] ルクレティウス『事物の本性について』、藤澤令夫・岩田義一訳、『世界古典文学全集』第二二巻所収、筑摩書房、一九六五年、三三二頁以下。
- [18] 同右、四六〇頁。（訳者「解説」より）
- [19] Lukian von Samosata: *Der wahren Geschichte. In: Lügen-geschichten und Dialoge. Aus dem Griechischen übersetzt und mit Anmerkungen und Erklärungen versehen von Christoph Martin Wieland*, Nordlingen 1985, S.89.
- [20] Schnabel, Johann Gottfried: *Insel Felsenburg*, Hrg. von Volker Meid und Ingeborg Springer-Strand, Stuttgart 1979, S.5.
- [21] Lukian: *Der wahren Geschichte*, S.102.

- [22] a.a.O., S.103.
- [23] ヴォルテール『ミクロメガス』、川口顕弘訳、国書刊行会、一九八八年、五七頁以下。
- [24] オシノフスキー (I・N) 『トマス・モアとヒューマニズム』、稲垣敏夫訳・亀山潔監訳、新評論、一九九〇年、二八頁。
- [25] オールデイス (フライアン) 『十億年の宴——S.F. その起源と発達』、浅倉久志・小隅黎・酒匂真理子・深町真理子訳、東京創元社、一九八〇年、七二頁。
- [26] 同右。
- [27] Bender, Imela: *Christoph Martin Wieland, Reinbek bei Hamburg 1990, S.118.*
- [28] アリストテレス『天体論』、村治能就訳、『アリストテレス全集』第四巻所収、岩波書店、一九六八年、三五頁。
- [29] 同右、三九頁。
- [30] クザーヌス (ニコラウス) 『知ある無知』、岩崎允胤・大出哲訳、創文社、一九六六年、一四四頁。
- [31] プルノ (ジョルダン) 『無限、宇宙および諸世界について』、清水純一訳、岩波書店 (岩波文庫)、一九八二年、五五頁。
- [32] 同右、一三五頁以下。
- [33] 藪田坦『無限』の思惟——ニコラウス・クザーヌス研究、創文社、一九八七年、三三二頁。
- [34] G・プルノ、前掲書、一六二頁。
- [35] コペルニクス『天球回転論』、高橋憲一訳・解説、み

- すず書房、一九九三年、一九四頁。(Ⅲ解説・コペルニクスと革命)
- [36] 清水純一によれば、嫌疑事項は二六一項を下らぬおびただしい数にのぼっていた。『ジョルダン・プルノの研究』、創文社、一九七〇年、四七頁。
- [37] クーン (トーマス) 『コペルニクス革命』、常石敬一訳、講談社 (講談社学術文庫)、一九八九年、三二二頁。
- [38] Günke, a.a.O., S.45.
- [39] フォントネル (ベルナル・ル・ボヴィエ・ド) 『世界の複数性についての対話』、赤木昭三訳、工作舎、一九九二年、九頁。
- [40] 同右、十頁。
- [41] 同右、二九頁以下。
- [42] 同右、三五頁。
- [43] 同右、九一頁。
- [44] 同右、九七頁以下。
- [45] 同右、一〇六頁。
- [46] 同右、一二七頁。
- [47] 初版の翌年に刊行された再版では、それまでの全五夜に第六夜「これまでの対話で示された考えの正しさを確認させる新しい考えと天空においてなされた最近の発見」をくわえて、全六夜構成となった。
- [48] 同右、一三五頁。
- [49] Kant, Immanuel: *Allgemeine Naturgeschichte und Theorie des Himmels oder Versuch von der Verfassung und dem*

- mechanischen Ursprunge des ganzen Weltgebüdes, nach Newtonischen Grundsätzen abgehandelt. In: *Kants Werke*. Akademie-Textausgabe. Unveränderter photomechanischer Abdruck des Textes der von der Preussischen Akademie der Wissenschaften 1902 begonnenen Ausgabe von Kants gesammelten Schriften, Bd. I, Berlin 1968, S.221.
- [50] *aaO*, S.234.  
 [51] *aaO*, S.224.  
 [52] *aaO*, S.221.  
 [53] *aaO*, S.222.  
 [54] *aaO*, S.226f.  
 [55] *aaO*, S.227.  
 [56] *aaO*, S.351.  
 [57] *aaO*, S.353.  
 [58] *aaO*, S.359. なお、この箇所は、原文では全文隔字体。
- [59] フォントネル、前掲書、一〇五頁。  
 [60] 同右、一二七頁。
- [61] Kant: *Allgemeine Naturgeschichte und Theorie des Himmels*, S.303.
- [62] *aaO*.
- [63] 浜田義文『若きカントの思想形成』、勁草書房、一九六七年、一一〇頁以下。
- [64] Kant: *Allgemeine Naturgeschichte und Theorie des Himmels*, *aaO*.
- [65] *aaO*, S.355.
- [66] *aaO*, S.355f.  
 [67] *aaO*, S.356f.  
 [68] *aaO*, S.358. 原文隔字体。  
 [69] *aaO*, S.359f.  
 [70] Gutke, *aaO*, S.50.  
 [71] ラヴィンヨイ(マーサー・O)『存在の大きな連鎖』、内藤健二訳、晶文社、一九七五年、一九一頁以下。
- [72] Kant: *Allgemeine Naturgeschichte und Theorie des Himmels*, S.360.  
 [73] *aaO*, S.365.  
 [74] Gutke, *aaO*, S.220f.  
 [75] ラヴィンヨイ、前掲書、二五九頁。  
 [76] これについては本書、第二章第五節で述べた。  
 [77] メルシエ(ルイ・セバスチャン)『紀元二四〇年——またとない夢』、原宏訳、『啓蒙のユートピア』第三巻所収、法政大学出版局、一九九七年、一〇六頁。
- [78] 同右、一三二頁。  
 [79] 同右、一三三頁。  
 [80] 同右、一三四頁以下。  
 [81] 同右、一四〇頁。  
 [82] 同右、一三七頁。
- [83] ただしコゼレックは、『紀元二四〇年』の出版年を、ちうじうわけか一七七〇年としている。
- [84] Koselleck, Reinhart: *Die Verzeitlichung der Utopie*. In: *Utopieforschung. Interdisziplinäre Studien zur neuzeitlichen Utopie*. Hrsg. von Wilhelm Volkamp, Bd. 3, Frankfurt am

Main 1985, S.2f.

[85] *aa.O.*, S.3.

[87] Mähl, Hans-Joachim: Die Republik des Diogenes. Utopische Fiktion und Fiktionsironie am Beispiel Wielands. In: *Utopieforschung. Interdisziplinäre Studien zur neuzeitlichen Utopie*. Hrsg. von Wilhelm Voßkamp. Bd.3. Frankfurt am Main 1985, S.51 u.71.

[87] Wieland, Christoph Martin: Gesicht von einer Welt unschuldiger Menschen. In: *Gesammelte Schriften*. 1. Abteilung: Werke I (1, 2) Poetische Jugendwerke. 1. und 2. Teil. Hrsg. von Fritz Homeyer. Hildesheim 1986. (Nachdruck der 1. Auflage Berlin 1909) S.405.

[88] *aa.O.*

[88] *aa.O.*, S.406f.

[89] *aa.O.*, S.406.

[90] *aa.O.*, S.410.

[92] Baudach, Frank: *Planeten der Unschuld – Kinder der Natur. Die Naturstandstheorie in der deutschen und westeuropäischen Literatur des 17. und 18. Jahrhunderts*. Tübingen 1993, S.350.

[93] Wieland: Gesicht von einer Welt unschuldiger Menschen, S.407f.

[94] *aa.O.*, S.411.

[95] *aa.O.*

[96] Wieland, Christoph Martin: Die Natur der Dinge. In: *Gesammelte Schriften*. 1. Abteilung: Werke I (1, 2) Poetische

Jugendwerke. 1. und 2. Teil. Hrsg. von Fritz Homeyer. Hildesheim 1986. (Nachdruck der 1. Auflage Berlin 1909) S.7.

[97] Baudach, Frank: Die Dichtungsauffassung des jungen Wieland. In: *Dichtungstheorien der deutschen Frühauflklärung*. Hrsg. von Theodor Verweyen in Zusammenarbeit mit Hans-Joachim Kertscher. Tübingen 1995, S.191.

[98] Wieland: Die Natur der Dinge, S.7f.

[99] Baudach: *Planeten der Unschuld*, S.318.

[100] 本書第二章第四節を参照された。

[101] コトブキマン(フランシス)『月の男』大西洋一訳『ヨーロッパ旅行記叢書』第二巻所収、岩波書店、一九九八年、四九頁。

[102] Müller, Götz: *Gegenwelten. Die Utopie in der deutschen Literatur*. Stuttgart 1989, S.154.

[103] Friedrich, Hans-Edwin: *Science Fiction in der deutschsprachigen Literatur. Ein Referat zur Forschung bis 1993*. Tübingen 1995, S.200.

[104] 『宇宙戦争』は本として出版されたのが一八九八年だが、出版に関しては『幽霊屋物語』のほうが先行している。

[105] Labwitz, Kurt: *Auf zwei Planeten*. Herausgegeben und mit einem Vorwort, Nachwort, einer Werkgeschichte und einer Bibliographie versehen von Rudi Schweikert. München 1998, S.105.

[106] *aa.O.*, S.85.

- [10] a.o., S.242.
- [108] Immerhofer, Roland: *Deutsche Science Fiction 1870-1914. Rekonstruktion und Analyse der Anfänge einer Gattung.* Wien 1996, S.26.
- [109] Kant: *Allgemeine Naturgeschichte und Theorie des Himmels*, S.365.

## 第5章 反転する世界

- [1] ハックスリー (オルダス) 『すばらしい新世界』、松村達雄訳、講談社 (講談社文庫)、『一九七四年』、六頁。
- [2] Doren, Alfred: *Wunschräume und Wunschzeiten.* In: *Utopie. Begriff und Phänomen des Utopischen.* Hsg. von Arnhelm Neussus. 3. Aufl. Frankfurt am Main 1986, S.153.
- [3] 本書 一一四頁。
- [4] 増田義郎 『新世界のユートピア—スペイン・ルネサンスの明暗』、中央公論社 (中公文庫)、『一九八九年』、一九七頁。
- [5] 同右、一九三頁以下。
- [6] エンゲルス (フリードリヒ) 『空想より科学へ』、大内兵衛訳、岩波書店 (岩波文庫)、『一九六六年』、三九頁。
- [7] Seeber, Hans Ulrich: *Zur Geschichte des Utopiebegriffs.* In: *Literarische Utopien von Morus bis zur Gegenwart.*

- Hrsg. von Klaus L. Berghahn und H. U. Seeber. Königstein/Ts. 1983, S.13.
- [8] Welck, Noma D.: *Die sowjetrussischen literarischen Utopien.* In: *Der utopische Roman.* Hsg. von Rudolf Vilgrader und Friedrich Krey. Darmstadt 1973, S.325.
- [9] Collins, Christopher: *Samtahn, Wells and the Tradition der literarischen Utopie.* In: *Der utopische Roman.* Hsg. von Rudolf Vilgrader und Friedrich Krey. Darmstadt 1973, S.331.
- [10] ザシヤーチン (エヴゲーニー) 『われら』、小笠原豊樹訳、『集英社版世界の文学』第四巻所収、一九七六年、四二頁。
- [11] 同右、二二頁。
- [12] 松原明 『鏡の世界の詩人—ザシヤーチンの『われら』にみる鏡のイメージ (一)』、『ロシア文学』一九二〇年代』創刊号、一九八一年、三八頁。
- [13] ザシヤーチン (エヴゲーニー) 『文学と革命とエントロピー』、松原明訳、『新日本文学』四九六号、一九八九年、一五四頁以下。
- [14] ザシヤーチン 『われら』、一一三頁。
- [15] 同右、一〇七頁。
- [16] 同右、六頁。
- [17] 同右、八五頁。
- [18] 同右、一四八頁。
- [19] 同右、一一五頁以下。
- [20] 同右、四四頁。

- [21] 同右 一二五頁以下。  
 [22] 同右 一一九頁。  
 [23] 同右 一九頁。  
 [24] 同右 一五〇頁。  
 [25] ザミヤーチン「文学と革命とエントロピー」一五六頁。  
 [26] Mannheim, Karl: *Ideologie und Utopie*. 7. Aufl. Frankfurt am Main 1985, S.224f.  
 [27] Musil, Robert: *Das hilflose Europa oder Reise vom Hundersten ins Tausendste*. In: *Gesammelte Werke*. Bd. 2: *Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik*. Hrsg. von Adolf Fisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.1091. (邦訳「ヨーロッパもなごヨーロッパもしくはあつどのなご旅」田島範男・長谷川淳基訳、『ムージル著作集第九巻・日記／エッセイ／書簡』所収、松籟社、一九九七年、一三四頁)  
 [28] *a.o.*  
 [29] Berg, Jan/Hartmut Böhme/Walter Fähnders/Jan Hans/Heinz-B. Heller/Joachim Hintze/Helga Karrenbrock/Peter Schützel/Jürgen C. Thöming/Peter Zimmermann: *Sozialgeschichte der deutschen Literatur von 1918 bis zur Gegenwart*. Frankfurt am Main 1981, S.286.  
 [30] Musil, Robert: *Das hilflose Europa oder Reise vom Hundersten ins Tausendste*. S.1088. (同右 一三三頁)  
 [31] Menges, Martin: *Abstrakte Welt und Eigenschaftlosigkeit*.

- Eine Interpretation von Robert Musils Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“ unter dem Leitbegriff der Abstraktion*. Frankfurt am Main 1982, S.251f.  
 [32] Musil, Robert: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.801. (邦訳『特性のない男』Ⅳ、四四頁)  
 [33] 『特性のない男』第一卷第三章にある次の一節を参照されたい。「キリストのなかにも、外的な人間と内的な人間がいた。そして、外的な事柄に関わりのあるキリストの行為はすべて、外的な人間としての彼がおこなったのであり、そのとき、内的な人間としての彼は不動の隔絶の地に (in unbeweglicher Abgeschlossenheit) 立つていたのである」とエックハルトは言っている。Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.121. (邦訳『特性のない男』Ⅰ、一四七頁) このエックハルトの言葉は、一九二二年に書かれたエッセイ「どうしようもないヨーロッパ」においても、文明的な性格をもつ「道徳」(Moral)と神秘的な性格をもつ「倫理」(Ethik)を区別する文脈のなかで引用されている。Das hilflose Europa oder Reise vom Hundersten ins Tausendste, S.1093. (同右 一三六頁) 神秘的な倫理の王国である「千年王国」を語る場面での「不動と隔絶」(eine Reglosigkeit und Abgeschlossenheit)とどう表現が出てくるのか、このエックハルトの言葉とおそろく無縁ではなからう。
- [34] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.1234. (邦訳『特性のない男』Ⅵ、一三三頁)

- [35] *a.a.O.*, S.1083. (同右, V, 一一九頁)
- [36] *a.a.O.*, S.1096. (同右, V, 一三五頁)
- [37] *a.a.O.*, S.1232. (同右, V, 一三〇頁以下)
- [38] 川村二郎『限界の文学』、河出書房新社、一九七八年、一七九頁。
- [39] Kühne, Jörg: *Das Gleichnis. Studien zur inneren Form von Robert Musils Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*. Tübingen 1968, S. 107.
- [40] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S. 1231. (邦訳『特性のなご男』, V, 一一九頁)
- [41] Bauer, Sibylle/Ingrid Drevermann: *Studien zu Robert Musil*. Köln 1966, S.224.
- [42] Kaiser, Ernst/Eithne Wilkins: *Robert Musil. Eine Einführung in das Werk*. Stuttgart 1962, S.263.
- [43] Rasch, Wolfdieterich: „Der Mann ohne Eigenschaften“. Eine Interpretation des Romans. In: *Robert Musil*. Hrsg. von Renate von Heydebrand. Darmstadt 1982, S.102.
- [44] Kettenacker, Lothar: *Der Mythos vom Reich*. In: *Mythos und Moderne*. Hrsg. von Karl Heinz Bohrer. Frankfurt am Main 1983, S.261ff.
- [45] Willmsen, Roger: *Robert Musil. Vom intellektuellen Eros*. München 1985, S.164.
- [46] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S. 1239. (邦訳『特性のなご男』, V, 一一三九頁以下)
- [47] Heydebrand, Renate von: *Die Reflexionen Ulrichs in Robert Musils Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*. Ihr

Zusammenhang mit dem zeitgenössischen Denken. 2. Aufl. Münster 1969, S.132.

- [48] Brosthaus, Herbert: *Zur Struktur und Entwicklung des „anderen Zustands“ in Robert Musils Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*. In: *Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte*. Jg.39 (1965), S.438f.
- [49] Bohrer, Karl Heinz: *Ploizlichkeit. Zum Augenblick des ästhetischen Scheins*. Frankfurt am Main 1981, S.213ff.
- [50] Luserke, Matthias: *Wirklichkeit und Möglichkeit. Modaltheoretische Untersuchung zum Werk Robert Musils*. Frankfurt am Main 1987, S.217.
- [51] M・ルゼルクはこの兄妹最後の自「規定き」『特性のなご男』全体の基礎となる章であると同時に、可能性のディステクルスの開始される章でもある第一巻第四章に立ち返らんとする試みとしてつとえつつある。
- Luserke, *a.a.O.*
- [52] Berg, Jan/Hartmut Böhme/Walter Fähnders/Jan Hans/Heinz-B. Heller/Jochim Hintze/Helga Karrenbrock/Peter Schütze/Jürgen C. Thöning/Peter Zimmermann, *a.a.O.*, S.358.
- [53] ケプラー (J・ハネス)『ケプラーの夢』、渡辺正雄・榎本恵美子訳、講談社(講談社学術文庫)、一九八五年、七頁。(渡辺正雄による「訳者序言」より)
- [54] Luft, David S.: *Robert Musil and the Crisis of European Culture 1880-1942*. Berkeley/Los Angeles/London 1984, S.102.

- [55] Howald, Stefan: *ästhetizismus und ästhetische Ideologie-kritik*. München 1984, S.97.
- [56] Schöte, Albrecht: Zum Gebrauch des Konjunktivs bei Robert Musil. In: *Euphorion*, Jg.55 (1961), S.217ff.
- [57] Bergahn, Wilfried: *Robert Musil in Selbstzeugnissen und Bilddokumenten*. Reinbek bei Hamburg 1963, S.90.
- [58] Sera, Manfred: *Utopie und Parodie bei Musil, Broch und Thomas Mann*. Bonn 1969, S.63f.
- [59] Musil, Robert: *Tagebücher*. Hrg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1976, Bd.1, S.243. (以下『日記』からの引用は、第一巻より、第二巻よりハカシ記)
- [60] *aa.O.*, S.243.
- [61] *aa.O.*, S.821, 838.
- [62] *aa.O.*, S.839.
- [63] *aa.O.*, S.445.
- [64] Musil, Robert: *Briefe 1901-1942*. Hrg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1981, Bd.1, S.466. (以下『手紙』からの引用は、第一巻より、第二巻よりハカシ記)
- [65] Musil: *Tagebücher I*, S.891.
- [66] *aa.O.*, S.349.
- [67] *aa.O.*, S.891.
- [68] *aa.O.*, S.890.
- [69] Musil: *Tagebücher II*, S.963.
- [70] コールター (ナイジェル) 『ハレー彗星がやってくる』、小尾信彌訳、岩波書店、一九八三年、二五頁。
- [71] Musil, Robert: *Das Land über dem Südpol*. In: *Gesammelte Werke*. Bd.2: Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik. Hrg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.740.
- [72] *aa.O.*
- [73] *aa.O.*, S.741.
- [74] *aa.O.*
- [75] 伊藤邦武『パースのプラゲマティズム』、題草書房、一九八五年、一九一頁以下。
- [76] 同右、一七四頁以下。
- [77] エーロ (ウンヘルト) 『その発想術』、大橋洋一訳『季刊くろぐさ』第三号、岩波書店、一九八五年、二二一頁。
- [78] Musil: *Das Land über dem Südpol*, S.742.
- [79] Musil: *Tagebücher I*, S.246.
- [80] *aa.O.*
- [81] *aa.O.*, S.247.
- [82] *aa.O.*, S.248.
- [83] *aa.O.*, S.341.
- [84] *aa.O.*, S.349.
- [85] *aa.O.*
- [86] *aa.O.*
- [87] *aa.O.*, S.391.
- [88] *aa.O.*, S.412.
- [89] *aa.O.*, S.421.
- [90] *aa.O.*, S.679.
- [91] *aa.O.*, S.641.

- [92] Musil: *Tagebücher II*, S.971.  
 [93] Musil: *Tagebücher I*, S.838.  
 [94] *aa O.*  
 [95] *aa O.*, S.839.  
 [96] *aa O.*, S.845.  
 [97] *aa O.*  
 [98] *aa O.*, S.830.  
 [99] *aa O.*, S.845.  
 [100] Musil: *Tagebücher II*, S.972.  
 [101] *aa O.*, S.973.  
 [102] *aa O.*  
 [103] Musil: *Tagebücher I*, S.829.  
 [104] *aa O.*, S.888.  
 [105] *aa O.*, S.844.  
 [106] *aa O.*, S.888.  
 [107] Musil: *Tagebücher II*, S.971.  
 [108] *aa O.*, S.963.  
 [109] Musil: *Tagebücher I*, S.921.  
 [110] *aa O.*, S.830.  
 [111] *aa O.*, S.838.  
 [112] *aa O.*, S.844.  
 [113] *aa O.*, S.889.  
 [114] バブコック(バーバラ・A)編『さかさまの世界』、岩崎宗治・井上兼行訳、岩波書店 一九八四年、九九頁。  
 [115] Musil: *Tagebücher I*, S.822.
- [116] *aa O.*, S.893.  
 [117] *aa O.*, S.840.  
 [118] Hönig, Christoph: Musils Pläne für einen satirisch-utopischen Experimentalroman: „Land über dem Südpol“ oder „Der Stern Ed.“. In: *Vom „Törlög“ zum „Mann ohne Eigenschaften“*. Hrsg. von Uwe Baur und Diemar Gotschnigg. München 1973, S.308f.  
 [119] スーヴェン(ターコ)「サイエンス・フィクションの詩学」、高橋和久訳、『ユリイカ』、一九八〇年四月号、青土社、一四六頁以下。  
 [120] 同右、一四九頁。  
 [121] Hönig, *aa O.*, S.300.  
 [122] Schwonke, Martin: Naturwissenschaft und Technik im utopischen Denken der Neuzeit. In: *Science Fiction*. Hrsg. von Elke Barmeyer. München 1972, S.65.  
 [123] *aa O.*, S.67.  
 [124] Franke, Herbert W.: Literatur der technischen Welt. In: *Science Fiction*. Hrsg. von Elke Barmeyer. München 1972, S.110.  
 [125] Schwonke, *aa O.*, S.61.  
 [126] Musil: *Tagebücher I*, S.893.  
 [127] Schwonke, *aa O.*, S.65f.  
 [128] Canetti, Elias: Dank. Rede bei der Verleihung des Nobelpreises für Literatur. In: *Wortmasken. Texte zu Leben und Werk von Elias Canetti*. München/Wien 1995, S.143f.  
 [129] Canetti, Elias: *Das Augenspiel. Lebensgeschichte 1931-1937*.

- Frankfurt am Main 1988, S.134.
- [130] *aa O.*, S.140.
- [131] *aa O.*, S.134.
- [132] Canetti, Elias: *Die Provinz des Menschen. Aufzeichnungen 1942-1972*. Frankfurt am Main 1976, S.9.
- [133] *aa O.*, S.118.
- [134] *aa O.*, S.224.
- [135] *aa O.*
- [136] *aa O.*, S.231.
- [137] *aa O.*
- [138] *aa O.*, S.284.
- [139] *aa O.*, S.138.
- [140] *aa O.*, S.77.
- [141] スーザン (ダルク) 『SFの変容』大橋洋一訳、国文社、一九九一年、一九頁。
- [142] Canetti, Die *Provinz des Menschen*, S.238.
- [143] *aa O.*, S.176.
- [144] *aa O.*, S.252.
- [145] *aa O.*, S.283.
- [146] *aa O.*, S.45.
- [147] Canetti, Elias: Hermann Broch. Rede zum 50. Geburtstag. In: *Das Gewissen der Worte*. Frankfurt am Main 1981, S.16.
- [148] ヒルシヤ (エーバーハルト) 『文学的世界像』大川勇・奥田敏広・山根宏訳、クインテッセンス出版、一九九五年、二八一頁。(ただし、これはE・ピールからの引用)

- [149] Baur, Ruprecht Slavko: Gespräch mit Elias Canetti. In: *Literatur und Kritik*. Heft 65 (Juni 1972), S.276.
- [150] Piel, Edgar: *Elias Canetti*. München 1984, S.103.
- [151] Canetti, Die *Provinz des Menschen*, S.39.
- [152] *aa O.*, S.42.
- [153] *aa O.*, S.231.
- [154] *aa O.*, S.156.
- [155] Canetti, Elias: *Die getreute Zunge. Geschichte einer Jugend*. Frankfurt am Main 1979, S.9.
- [156] Barnouw, Dagnar: Hythlodys Enkel oder die Nützlichkeit anderer Welten. In: *Experte der Macht. Elias Canetti*. Hrg. von Kurt Bartsch und Gerhard Melzer. Graz 1985, S.82f.

## 第6章 可能性感覚の誕生

- [1] トゥールミン (ステイーヴン・E) / ジヤニク (ラン・S) 『ワイトゲンシュタインのウィーン』、藤村龍雄訳、TBSブリタニカ、一九七八年、三九頁。
- [2] Broch, Hermann: Hofmannsthal und seine Zeit. Eine Studie. In: *Kommentierte Werkausgabe*. Hrg. von Paul Michael Lützeler. Bd. 9/1. Frankfurt am Main 1975, S.153.
- [3] なかには、フーゴ・フォン・ホーフマンスタールやレーオポルト・フォン・アンドリアン・ヴェーアブル

- クのように、名前に〈von〉のつく貴族もかまわれていたが、かれらの育った家庭環境は、「人文的な教養」「美的教養」に最大の価値をもとめる点において、オーストリアの教養市民層とその価値観をおなじくしていた。シヨースキー(カール・E)『世紀末ウィーン』、安井琢磨訳、岩波書店、一九八三年、三七七頁以下。
- [4] シヨースキー、前掲書、二二頁以下。
- [5] 早坂七緒「マッハの科学哲学とムージル」、鎌田道生編『ムージル 思惟する感覚』所収、鳥影社、一九九五年、一〇五頁以下、および、Bonach, Silvia: *Robert Musil's Studienjahre in Berlin 1903-1908*, Musil-Forum, Beiheft 1, Saarbrücken 1992, S.8, 21, 22, ムージルがギムナージウム卒業資格を取得したのは一九〇四年六月であるが、学籍登録のほうはそれ以前の一九〇三年十一月にすぎさせている。
- [6] Flinker, Martin: *Der Österreicher Robert Musil. In: Robert Musil. Leben, Werk, Wirkung*, Hrsg. von Karl Dinklage, Reinbeck bei Hamburg 1960, S.384.
- [7] Hyams, Barbara F.: *Was ist „säkularisierte Mystik“ bei Musil?* In: *Robert Musil. Untersuchungen*, Hrsg. von Uwe Baur und Elisabeth Castex, Königstein/Ts. 1980, S.85.
- [8] ヒュース(スチュアート)『意識と社会』、生松敬三・荒川幾男訳、みすず書房、一九七〇年、一六頁。
- [9] 上山安敏『神話と科学』、岩波書店、一九八四年、三四頁以下。
- [10] Müller, Götz: *Ideologiekritik und Metasprache in Robert Musils Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*, München/Salzburg 1972, S.12ff.
- [11] Musil: *Tagebücher II*, S.609.
- [12] Musil, Robert: *Ansätze zu neuer Ästhetik. Bemerkungen über eine Dramaturgie des Films*. In: *Gesammelte Werke*, Bd.2: *Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik*, Hrsg. von Adolf Frisk, Reinbeck bei Hamburg 1978, S.1142. (邦訳「新しい美学へのきざし——映画のドラマトウルギーについての所見」、田島範男・長谷川淳基訳、『ムージル著作集第九巻・日記／エッセイ／書簡』所収、松籟社、一九九七年、一六一頁)
- [13] *aaO.*, S.1142f. (同右、一六二頁)
- [14] *aaO.*, S.1143. (同右、一六二頁)
- [15] *aaO.* (同右)
- [16] *aaO.*, S.1143f. (同右、一六二頁以下)
- [17] *aaO.*, S.1145. (同右、一六四頁)
- [18] *aaO.*, S.1152. (同右、一七二頁)
- [19] *aaO.*, S.1151. (同右、一七一頁)
- [20] *aaO.*, S.1152. (同右、一七二頁)
- [21] *aaO.*, S.1151. (同右、一七一頁)
- [22] *aaO.*, S.1153. (同右、一七四頁)
- [23] *aaO.*, S.1147. (同右、一六六頁)
- [24] Klages, Ludwig: *Vom kosmogonischen Eros*. 3. Aufl., Jena 1930, S.50ff.

- [25] *aaO*, S.55.  
 [26] *aaO*, S.98.  
 [27] *aaO*, S.192.  
 [28] *aaO*, S.106f.  
 [29] Klages, Ludwig: Vom Wesen des Bewusstseins. In: *Sämtliche Werke*. Hrsg. von Hans Eggert Schröder u.a. Bd. 3. Bonn 1974, S.286.  
 [30] Klages: *Vom kosmogonischen Eros*, S.108.  
 [31] *aaO*, S.124.  
 [32] *aaO*, S.191.  
 [33] Musil: Ansätze zu neuer Ästhetik, S.1145. (同右 一六四頁)  
 [34] Kasdorff, Hans: *Ludwig Klages im Widerstreit der Meinungen*. Bonn 1978, S.48.  
 [35] Heydebrand, Renate von: *Die Reflexion Ulrichs in Robert Musils Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*. 2. Aufl. Münster 1969, S.252.  
 [36] Musil, Robert: *Beitrag zur Beurteilung der Lehren Machs und Studien zur Technik und Psychotechnik*. Reinbek bei Hamburg 1980, S.39.  
 [37] *aaO*, S.19.  
 [38] *aaO*, S.134.  
 [39] *aaO*, S.15.  
 [40] Arntzen, Helmut: *Musil-Kommentar sämtlicher zu Lebzeiten erschienener Schriften außer dem Roman „Der Mann ohne Eigenschaften“*. München 1980, S.29.
- [41] 長尾龍一『カール・シュニッツトの死』木鐸社、一九八七年、二二二頁。  
 [42] Lukács, Georg: Ausschnitte aus den Briefen von Georg Lukács an Cesare Cases. In: *Literatur und Literaturgeschichte in Österreich*. Sondernummer der Zeitschrift *Helikon. Weltliterarischer Beobachter*. Zeitschrift des Institutes für Literaturwissenschaft der ungarischen Akademie der Wissenschaften. Hrsg. von Ilona T. Erdélyi. Budapest 1979, S.310.  
 [43] Musil, Robert: *Vernachnis II*. In: *Gesammelte Werke*. Bd. 2: Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik. Hrsg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.956.  
 [44] Musil, Robert: Die Vollendung der Liebe. In: *Gesammelte Werke*. Bd.2: Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik. Hrsg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.160f. (邦訳『愛の完成』古井由吉訳、『ムーシル著作集第七巻・小説集』所収、松籟社、一九九五年、二二一頁以下) 以下、煩雑さを避けるため、『愛の完成』からの引用については原則として註を省略し、独立させた引用部についてはのみ、右の版に基づき、原典および邦訳のページ数を示す。  
 [45] *aaO*, S.157. (邦訳『愛の完成』二二二頁以下)  
 [46] *aaO*, S.188. (邦訳『愛の完成』二二二頁)  
 [47] 古井由吉『ムーシル觀念のエロス』岩波書店、一

- 九八八年、五八頁。
- [48] Musil: Die Vollendung der Liebe, S.193f. (邦訳『愛の完成』二五九頁)
- [49] *a.a.O.*, S.193. (邦訳『愛の完成』二五八頁)
- [50] Hofmannsthal, Hugo von: Das Märchen der 672. Nacht. In: *Gesammelte Werke in zehn Einzelbänden*. Hrsg. von Bernd Schoeller: Erzählungen/Erfundene Gespräche und Briefe/Reisen. Frankfurt am Main 1979, S.45. 以下、『第六七二夜のメールビエン』からの引用にしろては、必要な場合をのぞいて註を省略する。
- [51] Alewyn, Richard: *Über Hugo von Hofmannsthal*. 4. Aufl. Göttingen 1967, S.173.
- [52] Hofmannsthal: Das Märchen der 672. Nacht, S.62f.
- [53] Hofmannsthal, Hugo von: *Gesammelte Werke in zehn Einzelbänden*. Hrsg. von Bernd Schoeller: Reden und Aufsätze III (1925-1929)/Aufzeichnungen. Frankfurt am Main 1980, S.331.
- [54] フレーゲニヒ(ロルフ・W)『運命の女神——その説話と民間信仰』、竹原威滋訳、白水社、一九八九年、二二二頁。
- [55] Wunberg, Gotthart: *Der frühe Hofmannsthal. Schizophrenie als dichterische Struktur*. Stuttgart 1965, S.32.
- [56] Hofmannsthal, Hugo von: Das Tagebuch eines Willenskranken. In: *Gesammelte Werke in zehn Einzelbänden*. Hrsg. von Bernd Schoeller. Reden und Aufsätze I (1891-1913). Frankfurt am Main 1979, S.110.
- [57] Wunberg, *a.a.O.*, S.32.
- [58] Mach, Ernst: *Die Analyse der Empfindungen und das Verhältnis des Physischen zum Psychischen*. Nachdr. d. 9. Aufl., Jena 1922. Darmstadt 1987, S.3.
- [59] *a.a.O.*, S.17.
- [60] *a.a.O.*, S.8.
- [61] *a.a.O.*, S.9.
- [62] *a.a.O.*, S.72.
- [63] *a.a.O.*, S.74.
- [64] 広重徹『相対論の形成』、西尾成子編、広重徹科学史論文集1、みずさ書房、一九八〇年、三三三頁以下。
- [65] 同右、三三四頁以下。
- [66] 同右、三三〇頁以下。
- [67] 同右、三三三頁。
- [68] Mach: *Die Analyse der Empfindungen*, S.39.
- [69] Mach, Ernst: *Erkenntnis und Irrtum*. Skizzen zur Psychologie der Forschung. Unveränderter reprografischer Nachdr. d.5., mit der 4. übereinstimmenden Aufl., Leipzig 1926. Darmstadt 1987, S.VII.
- [70] Bahr, Hermann: Dialog vom Tragischen. In: *Überwindung des Naturalismus. Theoretische Schriften 1887-1904*. Hrsg. von Gotthart Wunberg. Stuttgart 1968, S.197f.
- [71] *a.a.O.*, S.197.
- [72] 野家啓一「訳者解説・マッハ哲学の射程——時間・空間論を軸に」、『マッハ』時間と空間」所収、法政大

- 学出版局、一九七七年、二二〇頁。
- [73] Bahr, *a.a.O.*, S.197.
- [74] ルカーチ(ジェルジ)『魂と形式』、川村二郎・田子修平・三城滿禰訳、『ルカーチ著作集』第一巻所収、白水社、一九八六年、二〇〇頁以下。
- [75] 同右、二〇〇頁。
- [76] Scheible, Hartmut: *Literarischer Jugendstil in Wien*. München/Zürich 1984, S.174.
- [77] Musil, Robert: *Beitrag zur Beurteilung der Lehren Machts und Studien zur Technik und Psychotechnik*. Reinbek bei Hamburg 1980, S.21.
- [78] *a.a.O.*, S.136. (Gutachten von Professor Carl Stumpf、<sup>4</sup>5)
- [79] *a.a.O.*, S.22.
- [80] *a.a.O.*, S.72.
- [81] *a.a.O.*, S.79.
- [82] *a.a.O.*, S.134.
- [83] *a.a.O.*, S.86.
- [84] *a.a.O.*, S.89.
- [85] *a.a.O.*, S.63.
- [86] *a.a.O.*, S.57.
- [87] *a.a.O.*
- [88] *a.a.O.*, S.33.
- [89] *a.a.O.*, S.34.
- [90] Stadler, Friedrich: *Vom Positivismus zur „Wissenschaftlichen Weltauffassung“. Am Beispiel der Wirkungsgeschichte*

von Ernst Mach in Österreich von 1895 bis 1934. Wien 1982, S.69.

- [6] Musil, Robert: Die Verwirrungen des Zöglings Törless. In: *Gesammelte Werke*. Bd. 2: Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik. Hrg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.136. (邦訳『テルレスの惑乱』、鎌田道生・久山秀久訳、『ムージル著作集第七巻・小説集』所収、松籟社、一九九五年、一六〇頁)
- [6] Fontana, Oskar Maunus: Was arbeiten Sie? Gespräch mit Robert Musil [30. April 1926]. In: *Gesammelte Werke*. Bd. 2: Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik. Hrg. von Adolf Frisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.942.

## 第7章 可能性感覚と現実感覚

- [1] Broch, Hermann: Robert Musil und das Exil. In: *Kommunierende Werkzeuge*. Hrg. von Paul Michael Litzeler. Bd. 9/1. Frankfurt am Main 1975, S.96.
- [2] フライ(フランツ)『同時代人の肖像』、池内紀訳、法政大学出版局、一九八一年、一五二頁。
- [3] クンテラ(ミラン)『小説の精神』、金井裕・浅野敏夫訳、法政大学出版局、一九九〇年、三八頁。

- [4] クンデラ (ミリン) 『裏切られた遺言』、西永良成訳 集英社、一九九四年、二六九頁。
- [5] Stadler, *aa O.*, S.59.
- [6] Musil: *Tagebücher I*, S.920.
- [7] Musil: *Briefe I*, S.62.
- [8] *aa O.*, S.63.
- [9] *aa O.*, S.367.
- [10] 早坂七緒「モーゼルのマッハ論文——紹介と評価の試み(完結編)」中央大学モイソフ学会『モイソフ文化』第四一号、一九八六年、二八頁。
- [11] 早坂七緒「マッハの科学哲学とモーゼル」鎌田道生編『モーゼル 思惟する感覚』所収、鳥影社、一九九五年、一三五頁。
- [12] Musil: *Briefe II*, S.215.
- [13] Musil: *Tagebücher I*, S.912.
- [14] *aa O.*, S.918.
- [15] M・ルゼルクに「ごく簡単な記述が見られるが、主にゲシュタルト理論との関連から述べたものであって、内容的に得るべきものは少ない。Luserke, Mathias: *Wirklichkeit und Möglichkeit. Modaltheoretische Untersuchung zum Werk Robert Musils*. Frankfurt am Main 1987, S.263ff.
- [16] Ryle, Gilbert: Intentionality-Theory and the Nature of Thinking. In: *Jenseits von Sein und Nichtsein. Beiträge zur Meinungs-Forschung*. Hrg. von Rudolf Haller. Graz 1972, S.7.
- [17] Simons, Peter: Alexius Meinong: Gegenstände, die es nicht gibt. In: *Grundprobleme der großen Philosophen. Philosophie der Neuzeit IV*. Hrg. von Josef Speck. Göttingen 1986, S.94.
- [18] 三浦雅弘「マイニングの対象論」、『立教大学研究報告・人文科学』第五二号、一九九三年、八八頁。
- [19] Meinong, Alexius: Über Gegenstandstheorie. In: *Gesamtausgabe*. Bd. 2. Hrg. von Rudolf Haller und Rudolf Kindinger. Graz 1971, S.517.
- [20] Meinong, Alexius: Über die Stellung der Gegenstandstheorie im System der Wissenschaften. In: *Gesamtausgabe*. Bd.5. Graz 1973, S.220ff.
- [21] Meinong: Über Gegenstandstheorie, S.494.
- [22] *aa O.*, S.490.
- [23] *aa O.*, S.485.
- [24] *aa O.*, S.486.
- [25] Mach, Ernst: *Die Analyse der Empfindungen und das Verhältnis des Physischen zum Psychischen*. Nachdr. d. 9. Aufl., Jena 1922. Darmstadt 1987, S.2ff. u. 24.
- [26] Meinong: Über Gegenstandstheorie, S.488.
- [27] *aa O.*, S.517.
- [28] *aa O.*, S.511.
- [29] Meinong: Über die Stellung der Gegenstandstheorie im System der Wissenschaften, S.224f.
- [30] *aa O.*, S.214.
- [31] Musil: Der Mann ohne Eigenschaften, S.159.

- [32] Musil: *Tagebücher I*, S.131f.
- [33] *aa.O.*, S.132.
- [34] 江里口明俊「マイノングの対象論」、『國學院雑誌』第九二巻第十一号、一九九一年、五七頁、参照。
- [35] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.761.
- [36] Meinong: *Über die Stellung der Gegenstandstheorie im System der Wissenschaften*, S.224f.
- [37] 「少佐夫人の物語」は、本書第一章第五節で述べたように、ウルリヒ若き日の神秘体験であるが、これが作品中に果たす役割はたんに「きわめて重要な」エピソードにとどまるものではない。第一巻第三二章で語られた「少佐夫人の物語」は、以後忘れられることによつて作品の地下に伏流する深層の物語になり、理性につよく傾いた《力の樹》(Baum der Gewalt)と神秘的な傾きをもつ《愛の樹》(Baum der Liebe)への分裂をウルリヒの生にもたらしながら、第一巻第一一三章以降、ふたたび作品の表層に浮上してくる。つまり、『特性のない男』第一巻は大きな円環をえがいて「少佐夫人の物語」に回帰するという構造をもつのだが、この深層の物語は、第一巻の末尾ちかくで浮上してくる以前にも、何度か作品の表層にせり出してきた、ウルリヒを《愛の樹》の方向にいざなうのである。第四〇章でウルリヒが「故郷を喪失した大いなる愛の息吹にそつと頬をなでられ」ときのことが語られるのも、その一例であり、ここで「故郷を喪失した大いなる愛」は、「忘れられた」「少佐夫人の物語」を暗示すると同時に、「息吹」(Atem)という、それにつづく言葉を紹介して、第二巻第五二章(清書稿)の「ある夏の日の息吹(Atemzüge)」の庭の到来を预示している。なお、『特性のない男』第一巻が大きな円環をえがいて「少佐夫人の物語」に回帰するのは、その間にウルリヒが——本書第六章第一節でも述べた——同時代の非合理主義との理論闘争をおこない、そこにひそむ非神秘主義とは異なる位相でふたたび「少佐夫人の物語」を見いだすためである。つまりそれは、「少佐夫人の物語」の神秘体験にふくまれた内的論理を、第二巻の兄妹愛の試みのなかであらためて探求するための、不可避の迂回であった。詳しくは、拙論「ある深層の物語の読解——ムージルの『特性のない男』研究のための序説」、京都大学大学院独文研究室『研究報告』第一号、一九八五年、十頁以下を参照のこと。「別の状態」のユートピアの基底に「少佐夫人の物語」があることについては、本書第一章第五節ですでに述べたとおりである。
- [38] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.16.
- [39] Meinong: *Über Gegenstandstheorie*, S.510.
- [40] Musil: *Vorwort IV Vorbemerkungen*. In: *Gesammelte Werke*. Bd.2: *Prosa und Stück/Kleine Prosa, Aphorismen/Autobiographisches/Essays und Reden/Kritik*. Hrsg. von Adolf Fisé. Reinbek bei Hamburg 1978, S.970.
- [41] 三浦雅弘、前掲論文、八八頁以下。
- [42] Russell, Bertrand: [Review of] *Untersuchungen zur Gegen-*

- standstheorie und Psychologie. Mit Unterstützung des k.k. Ministeriums für Kultus und Unterricht in Wien herausgegeben von A. Meinong (Leipzig: Verlag von Johann Ambrosius Barth 1904). In: *Mind. New Series*, vol. XIV (1905), S.533.
- [43] Russell, Bertrand: On denoting. In: *Mind. New Series*, vol. XIV (1905), S.483.
- [44] Russel, Bertrand: *Introduction to mathematical philosophy*. London 1919, S.169f.
- [45] ア・カンピツの用語「*Wirklichkeit*」を「*Wirklichkeit*」と訳し、「*Wirklichkeit*」を「*Wirklichkeit*」と訳す。Kampits, Peter: *Zwischen Schein und Wirklichkeit. Eine kleine Geschichte der österreichischen Philosophie*. Wien 1984, S.139.
- [46] *aaO*, S.15.
- [47] *aaO*, S.18.
- [48] *aaO*, S.15.
- [49] *aaO*, S.17.
- [50] 引用符なしで出てくるため、これが『対象論について』におけるキーワードのひとつであることに気づかなかったのであろう。邦訳は次のような意味不明の訳文になっている。「彼「フランツ・プレントナーのこと」の弟子であるマイノックは、『現実的なものの全体である宇宙はまだまだ尽きてはいない』の、その現実的なもののために偏見によつて語られている。『仮象の現実のはざままで——オーストリア哲学小史』、針生清人監訳、富士書店、十六頁。なお、原文は次のとお

- ろ : sein Schüler Alexius von Meinong wird von einem Vorurteil zugunsten des Wirklichen sprechen, während doch das „Universum in der Gesamtheit des Wirklichen noch lange nicht erschöpft ist“.
- [51] Meinong, Alexius: Zur Grundlegung der allgemeinen Werttheorie. Nachdruck der bei Leuschner & Lubensky, Graz, 1923 erschienenen Ausgabe. In: *Gesamtausgabe*. Hsg. von Rudolf Haller und Rudolf Kindinger. Bd. III: *Abhandlungen zur Werttheorie*. Bearbeiter von Rudolf Kindinger. Graz 1968, S.638.
- [52] Kampits, *aaO*, S.21.
- [53] また、可能性感覚を知らなければ、この一文が何を言っているのかも理解できない。引用符のない文のため、この文（註 [50] を参照）が、これがムージルの可能性感覚をふまえた記述であることに気づかなかつたのであろう。邦訳は次のような意味不明の訳文になっている。「この文に多くの展望は、在るものはずべてまったく別であり得るかも知れないということに関する意味を強めており、しかもそれによつて、たぐましい現実感に対立しているような可能性に関する意味も強めている。』『仮象と現実のはざままで——オーストリア哲学小史』、二〇頁。なお、原文は次のとおり : Diese Vielzahl von Perspektiven scharft den Sinn dafür, daß alles, was ist, ganz anders sein könnte, und damit denjenigen für das Mögliche, der dem robusten Wirklichkeitsinn entgegengesetzt ist.

- [45] Kampis, *a.a.O.*, S.139.
- [5] Wälder, Friedrich: Jenseits von wissenschaftlicher Philosophie und Metaphysik. Nachwort zur Dissertation von Ingeborg Bachmann. In: Ingeborg Bachmann: *Die kritische Aufnahme der Existentialphilosophie Martin Heideggers* (Dissertation Wien 1949). Aufgrund eines Textvergleichs mit dem literarischen Nachlaß hrsg. von Robert Pichl. München/Zürich 1985, S.180.
- [9] Bachmann, Ingeborg: *Wir müssen wahre Sätze finden. Gespräche und Interviews*. Hrsg. von Christine Koschel und Inge von Weidenbaum. München/Zürich 1983, S.124f.
- [5] Bachmann, Ingeborg: Der Mann ohne Eigenschaften. In: *Werke*. Bd.4: Essays/Reden/Vermischte Schriften/Anhang/Phonographie. München/Zürich 1978, S.100. 49 26 30
- Bachmann, Ingeborg: Ins Tausendjährige Reich. In: *Werke*. Bd.4. München/Zürich 1978, S.27.
- [8] Bachmann, Ingeborg: Frankfurter Vorlesungen: Probleme zeitgenössischer Dichtung. In: *Werke*. Bd.4. München/Zürich 1978, S.271.
- [5] Gürtler, Christa/Hans Höller: Über die Unvergleichbarkeit vergleichbarer Texte. Robert Musil, Thomas Mann und Ingeborg Bachmann. In: *Dialog der Epochen. Studien zur Literatur des 19. und 20. Jahrhunderts*. Walter Weiss zum 60. Geburtstag. Hrsg. von Eduard Beutner, Josef Donnerberg, Adolf Haslinger, Hans Höller, Karlheinz Rossbacher und Sigrid Schmid-Bortenschlager. Wien 1987,
- S.143.
- [9] Bartsch, Kurt: *Ingeborg Bachmann*. Stuttgart 1988, S.25.
- [9] Mechenberg, Theo: *Utopie als ästhetische Kategorie. Eine Untersuchung der Lyrik Ingeborg Bachmanns*. Stuttgart 1978, S.11.
- [9] *a.a.O.*, S.18.
- [9] Bartsch, *a.a.O.*, S.28ff.
- [5] Bachmann: Der Mann ohne Eigenschaften, S.80.
- [9] *a.a.O.*, S.87.
- [9] *a.a.O.*, S.96.
- [9] *a.a.O.*, S.100.
- [9] *a.a.O.*, S.101.
- [9] Musil, Robert: *Der Mann ohne Eigenschaften*. Hrsg. von Adolf Frisé. Hamburg 1952, S.1636.
- [70] Bachmann: Frankfurter Vorlesungen, S.186.
- [71] *a.a.O.*, S.192.
- [72] *a.a.O.*, S.192f.
- [73] *a.a.O.*, S.193.
- [74] *a.a.O.*, S.195.
- [75] *a.a.O.*, S.197.
- [76] *a.a.O.*, S.196.
- [77] *a.a.O.*, S.199.
- [78] *a.a.O.*, S.194.
- [79] *a.a.O.*, S.182.
- [80] Von der Lühe, Imela: „Ich ohne Gewähr“. Ingeborg Bachmanns Frankfurter Vorlesungen zur Poetik. In: *Entwürfe von*

- Frauen in der Literatur des 20. Jahrhunderts*. Hrsg. von Imela von der Lühe. Berlin 1982, S.109.
- [18] Bachmann: *Frankfurter Vorlesungen*, S.260.
- [22] *a.a.O.*
- [23] *a.a.O.*, S.258.
- [24] *a.a.O.*
- [25] *a.a.O.*, S.268.
- [26] Mechtenberg, *a.a.O.*, S.31.
- [27] Bartsch, *a.a.O.*, S.29.
- [28] 水藤龍彦「ローベルト・ムージルの原初の光景」『希土』第十二号、一九八四年、七五頁。
- [29] Bachmann: *Frankfurter Vorlesungen*, S.268.
- [30] *a.a.O.*, S.271.
- [31] *a.a.O.*, S.270.
- [32] Musil: *Tagebücher I*, S.951.
- [33] Musil, Robert: *Der Mann ohne Eigenschaften*. Hrsg. von Adolf Frisé. Hamburg 1952, S.1636.
- [34] Bachmann: *Frankfurter Vorlesungen*, S.270.
- [35] *a.a.O.*
- [36] 「婦納的志向のユートピア」にはそのような具体像がないとしても、本書第五章第四節で紹介した『惑星エト』構想にはユートピアの具体像が示されているのではないか、と言われるかもしれない。しかし、『惑星エト』に呈示されているのは、半ば奇想としての思考実験的ユートピアであって、「千年王国」のような、発光するイメージをともなう到達への憧れをつよく喚

起す超越的ユートピアではない。

- [37] Bachmann: *Wir müssen wahre Sätze finden*, S.145.
- [38] Bachmann, Ingeborg: *Malina*. In: *Werke*. Bd.3: *Todesarten: Malina und unvollendete Romane*, S.121.

## 第8章 可能性感覚とユートピア

- [1] Bohrer, Karl Heinz: *Die ladierte Utopie und die Dichter*. In: *Merkur* Jg.26, Heft 12 (1972), S.1207.
- [2] *a.a.O.*
- [3] *a.a.O.*, S.1207f.
- [4] ただし、ボーラーが言っているのは、『ガリストル病』（一九七二）を書いたころの若き（一）ヴァルサーである。
- [5] Bohrer, *a.a.O.*, S.1208f.
- [6] *a.a.O.*, S.1215/1218.
- [7] *a.a.O.*, S.1222f.
- [8] *a.a.O.*, S.1223.
- [9] 長尾龍一『思想史斜断』、木鐸社、一九八一年、一二五頁。
- [10] 同右、一二六頁。
- [11] 内藤道雄『詩的自我のドイツ的系譜』、同学社、一九九六年、一三三頁。
- [12] 同右、一四〇頁。

- [13] 同右、一三〇頁。
- [14] Mannheim, Karl: *Ideologie und Utopie*. 7. Aufl. Frankfurt am Main 1985, S.220.
- [15] *a.a.O.*, S.219.
- [16] *a.a.O.*, S.169.
- [17] *a.a.O.*, S.203.
- [18] *a.a.O.*, S.219.
- [19] *a.a.O.*, S.220.
- [20] 竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』、中央公論新社、一九九九年、二四四頁。
- [21] 同右、三三六頁。
- [22] 竹内洋『大衆モダニズムの夢の跡』、新曜社、二〇〇一年、一三二頁。
- [23] 同右、五七頁。
- [24] 同右、五九頁。
- [25] ブルーム(アラン)『アメリカン・マインドの終焉』、菅野盾樹訳、みすず書房、一九八八年、四四頁。
- [26] 同右、五三頁。
- [27] 同右、五五頁。
- [28] 竹内洋『学歴貴族の栄光と挫折』、一五七頁。
- [29] Mannheim: *Ideologie und Utopie*, S.224f.
- [30] ヘーネ(ハインツ)『ピトラー独裁への道』、五十嵐智友訳、朝日新聞社、一九九二年、四一五頁。
- [31] 小岸昭『世俗宗教としてのナチズム』、筑摩書房(ちくま新書)、二〇〇〇年、七八頁以下。
- [32] Musil: *Der Mann ohne Eigenschaften*, S.1887.
- [33] Mannheim: *Ideologie und Utopie*, S.135.
- [34] *a.a.O.*, S.174.
- [35] *a.a.O.*, S.222.
- [36] *a.a.O.*, S.223.
- [37] *a.a.O.*, S.177.
- [38] *a.a.O.*, S.140.
- [39] マルクス(シヨルジユ)『異星人伝説』、盛田常夫訳、日本評論社、二〇〇一年、三頁。
- [40] 同右、三頁以下。
- [41] ルカーチ(シヨン)『ブダペストの世紀末』、早稲田みか訳、白水社、一九九一年、一八〇頁以下。
- [42] Johnston, William M.: *Osterreichische Kultur- und Geistesgeschichte. Gesellschaft und Ideen im Donauraum 1848 bis 1938. Übersetzt von Otto Grohna*, Wien 1974, S.359.
- [43] 加藤雅彦『中欧の復活——「ベルリンの壁」のあとに』、日本放送出版協会、一九九〇年、五六頁以下。
- [44] Stadler, *a.a.O.*, S.107.
- [45] Stadler, Friedrich: *Ernst Mach - Zu Leben, Werk und Wirkung*. In: *Ernst Mach - Werk und Wirkung*, Hrsg. von Rudolf Haller/Friedrich Stadler, Wien 1988, S.50f.
- [46] *a.a.O.*, S.55.
- [47] Mannheim: *Ideologie und Utopie*, S.178.
- [48] *a.a.O.*, S.172f.
- [49] *a.a.O.*, S.178.
- [50] *a.a.O.*, S.85.
- [51] 折原浩『危機における人間と学問』、未來社、一九六九

年、一一五頁。

[52] 同右、三八頁。

[53] 同右、一一二頁。ただし、これはアーネスト・マンハイム (Ernest Mannheim) の追悼文「カール・マンハイム、一八九三—一九四七」からの引用である。筆者について、折原は「おそらくマンハイムの親族と思われる」との推測を述べているが (同右、一一五頁)、『追悼文が掲載された『アメリカ社会学雑誌』の記述が

ら、当時カンザス・シテイ大学に勤務していた人物 (社会学者?) であることがわかるだけで、詳細は不明。なお、姓の綴りが若干異なる。Mannheim, Ernest;

Karl Mannheim, 1893-1947. In: *The American Journal of Sociology*. Vol.52, Number 6 (1947), S.471-474.

[54] Canetti: *Die Provinz des Menschen*, S.238.

[55] Mannheim: *Ideologie und Utopie*, S.51.